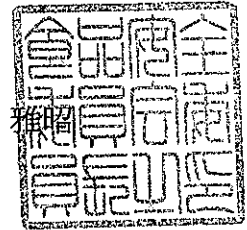




府食第441号
平成17年4月28日

厚生労働大臣
尾辻 秀久 殿

食品安全委員会
委員長 寺田



食品健康影響評価の結果の通知について

平成16年10月1日付け厚生労働省発食安第1001001号をもって貴省より当委員会に対して意見を求められたラウンドアップ・レディー・アルファルファ J101 系統とラウンドアップ・レディー・アルファルファ J163 系統を掛け合わせた品種については、「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」に基づき、その安全性に問題はないと判断しましたので通知します。

なお、食品健康影響評価の結果は別添のとおりです。

(別添)

「ラウンドアップ・レディー・アルファルファ J101 系統とラウンドアップ・レディー・アルファルファ J163 系統を掛け合わせた品種」に係る食品健康影響評価に関する審議結果

申請品種名：「ラウンドアップ・レディー・アルファルファ J101 系統とラウンドアップ・レディー・アルファルファ J163 系統を掛け合わせた品種」

性 質：除草剤グリホサート耐性

申 請 者：日本モンサント株式会社

開 発 者：Monsanto Company (米国)

1. 申請品種の概要：

申請品種については、除草剤グリホサート耐性の形質が付与された 2 系統を従来からの手法で掛け合わせたものである。掛け合わせる前の J101、J163 の各系統については、平成 17 年 3 月 31 日に食品安全委員会における食品健康影響評価は終了しており、いずれもヒトの健康を損なうおそれはないものと判断されている。

なお、アルファルファは同質 4 倍体であり、特定の遺伝子の遺伝的固定には自殖或いは近交交配が必要となるが、これが難しいため、掛け合わせを行うとのことである。

2. 食品健康影響評価結果：

挿入された遺伝子によって宿主の代謝系に影響なく、除草剤耐性の形質が付与されている品種同士の掛け合わせである。

J101 系統及び J163 系統に導入された *cp4 epsps* 遺伝子により産生される CP4 EPSPS タンパク質は、いずれも、シキミ酸合成経路(芳香族アミノ酸合成経路)の律速酵素ではなく、EPSPS(5-エノールピルピルシキミ酸-3-リン酸合成酵素)活性が増大しても、本経路の最終産物である芳香族アミノ酸の濃度が高まることはないことから、その作用機作は独立しており、植物代謝経路に影響を及ぼすことはないと判断される。

亜種レベル以上の交配ではない。

J101 系統及び J163 系統は、いずれもマメ科 *Medicago* 属のアルファルファ(*Medicago sativa* L.) である。

摂取量・食用部位・加工法に変更はない。

J101 系統と J163 系統と、それらを掛け合わせた品種において、摂取量、食用部位、加工法等の利用目的ならびに利用方法に変更はない。

以上、～ の結果から、「ラウンドアップ・レディー・アルファルファ J101 系統とラウンドアップ・レディー・アルファルファ J163 系統を掛け合わせた品種」については、「遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方」(平成 16 年 1 月 29 日 食品安全委員会決定)に基づき、安全性の確認を必要とするものではなく、その安全性に問題はないと判断される。